優しい緩和ケア

緩和ケア科　部長　加登　大介

「緩和ケア」という言葉にあまりよい印象を持たれない方もいらっしゃることでしょう。また、緩和ケアの診療では痛み等の症状を和らげる目的で医療用麻薬を用いることがありますが、さらに麻薬と聞くと「身体に悪い」「命を縮める」というイメージ（誤りです！）から、緩和ケアに対して余計にマイナスの印象を持つ方もおられるかもしれません。しかし、実は、緩和ケアも医療用麻薬も患者さんにとって、とても〝優しい〟のです。信じられませんか？

緩和ケアではいろいろな専門職が『主にがんによる痛み等のつらい症状を和らげる』ことを目指して協働しています。しかし、苦痛からの解放は本来患者さんの基本的な権利ですから、それ自体はごく当たり前のことでもあります。それでは緩和ケアの目標は？それは、つらい症状のためにできなくなったことがまたできるように、あるいは、つらい症状に邪魔されずに今後のことをきちんと話し合えるように等、苦痛を緩和したその先にある『患者さんの希望を叶える』ことが目標です。病状が進み、身の回りのことが自分でできなくなった患者さんに関しては、症状を和らげることに加えて『日常生活のお世話を提供する』ことも緩和ケアの役割です。

市立砺波総合病院では、緩和ケアを望む全てのがん患者さんに、外来でも入院でも専門的な緩和ケアを提供する仕組みを整えています。望む場所や過ごし方は患者さんによって異なります。それぞれの希望を尊重し、主に外来では苦痛症状を和らげることで生活を支えたり、今後のことを考えたりすることのお手伝いをします。入院では、つらい症状が和らぐまでの一時的な場所として利用いただく場合と、終末期の患者さんでは日常生活のお世話を提供しながら療養いただく場合があります。

さて、冒頭の〝優しさ〟について最後にお話します。こんな試験結果があります。がんと診断されてすぐに緩和ケア科を受診し、がん治療と並行して緩和ケアを受けた患者さんとがん治療だけを受けた患者さんを比べると、緩和ケアを並行して受けた患者さんの寿命の方が長かったのです。命は縮むどころか延びました。麻薬だって上手に使えば実は身体に馴染むいい薬なのです。がん患者さんやそのご家族で、もっと詳しく聞きたいという方がおられましたら、がん相談支援センターまたは緩和ケア外来までご連絡ください。

がんを患う全ての患者さんとそのご家族に開かれた優しい場所と支援を提供し、緩和ケア部門のメンバー全員で皆さんの暮らしと希望を支えることを目指します。